

登録コード	F3B71440	開講年度	2026				
授業科目	卒業研究				担当教員	小関 道彦 他	
英文授業名	Graduation Study				副担当	照月 大悟・渡辺 健太郎	
単位数	6	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期		対象学生
講義室			授業形態	実験	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】	
	2 2 Fカリ						
	【2022年度以前カリキュラム対象】 ヒトと環境にやさしい機械を創造するための専門的知識と課題解決能力				⇔	研究テーマについてに十分な知識を身につけ、テーマの課題を解決できるようになる。	
	【2022年度以前カリキュラム対象】 コミュニケーションおよび情報収集・発信能力				⇔	研究成果をまとめて論文と口頭発表することができるようになる。	
	【2022年度以前カリキュラム対象】 課題解決に向けて自主的・継続的に学習・計画・実行できるデザイン力と実行力				⇔	研究計画を立案し、そのスケジュールをもとに研究成果をだすことができるようになる。	
	2 4 Fカリ・機械部・ット・バ・イコース, 2 3 Fカリ・機械部・ット・バ・イコース						
	【2023年度以降カリキュラム対象】 課題解決に向けて自主的・継続的に学習・計画・実行できる能力を有する				⇔	・研究テーマについてに十分な知識を身につけ、テーマの課題を解決できるようになる。 ・研究成果をまとめて論文と口頭発表することができるようになる。 ・研究計画を立案し、そのスケジュールをもとに研究成果をだすことができるようになる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	キャリア						
(3)全学横断特別教育プログラム	ローカル・イノベーター養成コース、ストラテジー・デザイン人材養成コース						
(4)授業の概要	研究テーマに関連した分野の知識を輪講などを通じて得るとともに、課題の設定、計画解決などを自主的に遂行できる能力の研鑽を図る。研究期間を通じて研究の仕方、レジュメの書き方、プレゼンテーションの方法などを学ぶ。						
(5)授業計画	卒業研究テーマの研究を指導教員の指導のもとに行う。「卒業研究」は中間発表会で研究状況を、また本発表会でその成果の発表を行う。						
(6)成績評価の方法	後期末に行われる卒業研究発表会での発表内容と質疑応答、提出されたレジュメについて採点を行う。最終発表会前に卒業論文を提出してもらい、コース教員がその内容を確認する。最終的な評価は、指導教員による研究に対する理解と態度の評価に卒業研究発表会後のコース教員による採点を加えて評価会議で決定する。						
(7)成績評価の基準	(1)問題の設定が適切であり、(2)その問題の背景を説明できており、(3)その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(4)それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、(5)その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。(1)から(5)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「合格水準にある」。						
(8)事前事後学習の内容	卒業研究テーマについて、日々研究を進め、発表会（中間発表・最終発表）の準備と発表に関する研究計画検討をきちんと時間をかけて実施する。						
(9)履修上の注意	4年次進級に必要な単位数をとり、4年次に進級しなければ卒業研究に着手することはできない。研究室に配属されたら指導教員の指示に従うこと。						
(10)質問,相談への対応	指導教員の指示に従うこと。						
(11)学生へのメッセージ	卒論の提出は最終発表前に完成された卒論の提出となりました。 卒業研究は実際に研究活動を行うという点で、3年次までの授業とは全く形態が異なる。創意工夫し自主的に問題解決を図る能力を培うことが重要である。自ら求めて研究を行うこと。大学から実社会へ移行する大切な準備期間でもある。						
(12)その他	座学ではありませんが、本授業に取り組む時間は必要です。月曜日から金曜日までの日中、毎日きちんと卒業研究に取り組むのは、この単位取得の必要条件です。						
【教科書】	特になし。						
【参考書】	各指導教員の指示によるが、卒業研究に関連した参考書として以下に示す。 1) 中田秀雄・金城 悟 編著、大学生のための研究論文のまとめ方 データ収集からプレゼンテーションまで、文化書房博文社 2) 新堀 聡、評価される博士・修士・卒業論文の書き方、同文館出版 3) 富田軍二・小泉貞明、科学論文のまとめ方と書き方、朝倉書店 4) 田中義麿他、科学論文の書き方、裳華房 5) S. Sorenson, How to Write Research Papers:3RD REV Edition、Arco Pub. 6) 3年次までの実験実習テキスト						